

第 1 回 プラスチック問題に関する万国津梁会議 議事概要

1. 資料説明に対する委員の質問・意見等

No.	質問・意見等	回答
1	・集めたプラスチックを県内で処理する能力が不足しており、十分な処理ができていないところに大きな課題を感じた。必要な処理能力、増強する計画の有無や課題を教えてください。(村上委員)	・現在、県内でプラスチックを再資源化する施設はなく、また最終的に製品としたものを利用する数も少ない。 ・新しい振興計画や次年度予算で循環型社会に資する施設の補助と体制構築の支援を検討中である。(事務局)
2	・台湾は世界でもトップレベルのリサイクルの水準を維持している。同じ島しょ地域として参考になると思う。今後ヒアリング等の調査先に加えるとよい。(原田委員)	(対応方針) ・台湾の取り組みについて情報収集する。
3	・台湾で注目すべきポイントがあれば教えてください。(浅利委員長)	・分別・回収したごみは、政府が管理する価格で取引され、経済的に機能する仕組みが構築されている。全体の資源ごみの 1 割強が学校等のコミュニティで回収されており、そのことでクオリティが上がっている。(原田委員)
4	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一般廃棄物や産業廃棄物の量に変化はあったか。(原田委員)	・きちんとした数値は把握できていない。一般廃棄物については特に大きく増えてはいないと聞いている。(事務局)
5	・レジ袋辞退率の調査について、コンビニや個人の商店も調査対象に含めていたのか。また、今後調査対象とする予定はあるか。(原田委員)	・調査対象ではない。コンビニ等も調査対象とするか検討したが新型コロナの感染拡大もあり、保留中である。(事務局) ・コンビニでの辞退率は 75%程度である。観光客が減ったときも辞退率に変化はなかった。(久鍋委員)
6	・ペットボトルの再資源化工場はどれくらいのスピードで出来るのか。また、運搬、回収の仕方を今後どのように変えようとしているのか。(久鍋委員)	・回収は主に市町村の業務であり、県が管理したことはなかったと思う。補助制度等で推進したことはないため、委員の意見を参考に進めたい。(事務局)
7	・観光業者や工事業者がシャドーワークとして清掃・回収した後に、一般ごみと混ぜて出された漂着ごみの量を把握ができないか。(清野委員)	・現時点では調査事例はなく、把握できていない。(事務局)
8	・アンケートやヒアリングをすることで、シャドーワークで清掃を行ってきた方や漂着ごみを事業ごみと混ぜて処理していた事業者から「県に気づいてもらえた」と思ってもらえる。県民の機運を高めていただけるとよいと思う。(清野委員)	(対応方針) ・事業者アンケートに、シャドーワークでの清掃についての質問を追加する
9	・海岸の植生に取り込まれているプラスチックごみに関する調査のデータがあれば教えてください。データがあれば陸に近いところの堆積物への関心も高まると思う。(清野委員)	・清掃事業中に植生の中から回収している可能性はあるが、回収場所を区別していないため、量は不明である。(事務局)

No.	質問・意見等	回答
10	<p>・飲料メーカーも巻き込んで、県の仕組みとして例えばペットボトルについてデポジット制度を構築することも必要だと思う。マイボトルの使用など、新たなライフスタイルや消費のあり方を示すことも重要である。(原田委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する ・デポジット制度の導入 ・新しいライフスタイルや消費のあり方
11	<p>・環境教育の重要性を指摘したい。小中高校での海ごみ、プラごみに関する学習の状況について調査してほしい。現時点で把握していることがあれば教えてほしい。(原田委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸漂着物に関する事業として、市町村が実施する環境教育・発生抑制対策への補助事業がある。(事務局) ・環境教育の教材用素材を作成した。県ホームページで公開中である。次回の万国津梁会議で紹介したいと思う。(事務局) ・買い物ゲームという小学4年生を対象とした環境教育プログラムがある。毎年度10校ずつ実施している。(事務局) ・沖縄県、各団体、NPO、マスコミ等が環境問題やプラスチック問題に取り組んでいる。今月もZOOMでこの問題について小学生・中学生が企業に質問するといった取り組みを行った。(久鍋委員)
12	<p>・環境教育は継続的な取り組みが大事である。先生方の研究会等と連携して取り組みを進めるとよい。(原田委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する ・教育関係者との連携
13	<p>・環境教育について、別の切り口もあるかもしれない。海ごみ調査等を行いながら、結果を発信する等の方法で、主体性を育めると思う。(清野委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する ・主体性を育む環境教育の方法
14	<p>・ごみ問題だけでなく、別分野でもいいので、沖縄県で実施している子供たちや地域住民の主体性や内発性を盛り上げるようなプログラムについて教えてほしい。(清野委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境センターでは様々な環境教育の講座や本の貸し出しを行っている。また、令和2年に「おきなわ環境教育プログラム集」を作成し、県のホームページで周知している。(事務局)
15	<p>・集めた物の処理・活用の視点までつながるような学習を、体制づくりと合わせて進めることができると、漂着ごみを資源として生かすプラスへの転換につなげられる。(村上委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する ・ごみの収集、処理、回収までを含めた学習 ・漂着ごみを資源とするプラスへの転換
16	<p>・各市町村で異なるごみの分別方法について、統一することが重要と考える。集める側として資源としてのスケールメリットが出てくる。また、廃棄物処理施設に対する負のイメージを払拭するため、県や市町村の支援もお願いしたい。(赤嶺副委員長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物について、各市町村の事情に応じて分別されているが、プラスチックの資源化を進めていく上で、重要な視点と考えている。市町村のお話も伺いながら、今後検討したい。(事務局) <p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言に記載することを検討する。

17	<p>・岡山県真庭市の場合、堆肥化施設を建設する際に公募をしたところ、6カ所から誘致の手が挙がった。ごみ処理施設が県民に理解される土壌づくりと、地域の産業として育てる視点が必要になると思う。また国内の事例だけでなく、欧米をはじめ海外の事例も積極的に収集・整理する必要があると思う。(原田委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理施設について、理解の促進や地域産業として育成する視点を提言に記載することを検討する ・海外の取り組みについて情報収集する。
----	--	---

No.	質問・意見等	回答
18	<p>・生産者としては、製造・使用するプラスチックの量を減らすべきだと考えている。県にはプラスチック削減の取り組みをブランディングしてほしい。また、軽量化やごみ自体を出さないという取り組みがあれば教えてほしい。(久鍋委員)</p>	<p>・県では平成17年からレジ袋の有料化に取り組んでいる。軽量化は企業により容器の形状等が異なることもあり、取り組みにくい面がある。今後環境行政として生産から流通分野にどのようなアプローチをするか検討したい。また、廃棄物が発生しないような生産・流通のあり方についても改めて検討したい。(事務局)</p>
19	<p>・沖縄が脱プラスチックの先進地域になることは全国の脱プラスチックに良い影響を与えたいと思う。ワンウェイプラスチックごみを減らしていく取り組みをぜひ先進的に行っていただきたい。脱プラが県民のプライドにつながることで取り組みが広がりやすくなると思う。(村上委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する <ul style="list-style-type: none"> ・ワンウェイプラの先進的な削減 ・県民のプライドにつながる脱プラ
20	<p>・対馬では、硬質プラスチックは企業に引き取ってもらう仕組みができた。ただし、発泡スチロール等に関しては引き取られていない。残った深刻なものへの対策が問題となっている。(清野委員)</p> <p>・真庭市では、地域の方々が直接対話する中でごみについての認識がお互いに解消し、悪臭の懸念が払拭されていった。ごみの処分の話をきっかけに集落全体の空間の検討に発展した。(清野委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対馬、真庭市の取り組みについて情報収集する
21	<p>・沖縄には限られた範囲の中で循環する伝統的な工夫、知恵があると思う。自然物を含めた循環型社会の姿を見せていただき、それが沖縄を訪れるひとつの楽しさにもつながる仕組みを作っていただきたい。(清野委員)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下記の視点を提言に記載することを検討する <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な資源循環の工夫や知恵の活用 ・沖縄の魅力につながる仕組み
22	<p>・別添資料5のアンケート回答率が非常に低い。アンケートをすること自体も発信になるので、うまく協力が求められる形を目指してほしい。最終版のアンケート案を各委員に送信して相談のうえ、決定していただきたい。(浅利委員長)</p>	<p>(対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの修正案を各委員に送信し、相談の上、最終版を決定する

2. 議事「持続可能な島しょ型脱プラスチック社会のあり方について」に対する委員の意見

No.	意見
1	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な目標は、分別収集などの統一化を図り、県民一人ひとりの意識を高めることである。県には、沖縄全体を大局的に考え、取りまとめる役割を担っていただきながら、市町村の廃棄物・プラスチック問題に取りかかり、将来はスケールメリットのある形にしていくべきだと思う。リサイクルされた商品のアウトプットは、まず行政から先頭に立っていただきたい。例えばグリーン購入法などの制度を活用し、行政から取りかかることで、県民や企業で当たり前になりリサイクル製品が使われるような社会になるとよいと思う。(赤嶺副委員長)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックがなかった時代はどう生活していたのかを改めて学びたいと思っている。沖縄は植物の葉を利用するなど、プラスチックや化学繊維がなかった時代のものが残されていたり、製造されていると思う。ただし、昔のものをそのまま踏襲するわけにはいかないものもある。伝統的なものと新たな生活のやり方や素材と結び付けながら、沖縄らしいスタイルを作るのではないかとと思う。沖縄の限られた空間の中でのやり取りに学び、地元をリスペクトしながらという姿勢で取り組むと、ポジティブな方向に向かっていくと思う。(清野委員)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄には大阪湾や東京湾などと比べてずば抜けて綺麗な海があり、分解性プラスチックを海洋で評価するのに最適であると思っている。生ごみと一緒にコンポストにできる素材を開発する、もし海洋に流出した場合も分解され、マイクロプラスチック問題が起これないような素材を県内で技術開発できれば、輝くポイントになると思う。(常盤委員)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・島しょ地域ならではの不利もあるが、一方で自立した制度を導入し得るというメリットもあると思う。沖縄ならではの取り組みについて世界レベルを意識して議論できたらよいと思う。島しょ地域では最初のうちは被害者意識が大きいですが、誰かを悪者にしては解決できるものではない。県民、企業が一緒になって日本をリードしていけるような取り組みを沖縄県から始められるとよいと思う。(原田委員)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄から発信しようということを、皆さんで同じ考えでやっていきたいと思う。ただし、短期・中期・長期的な視点については、世の中の変化を見れば、ほとんどが短期で取り組まなければならないものだと思う。そして、皆さんのご協力のもと、リサイクルとリデュース、沖縄からのブランディング、これらをきちんと決めて沖縄から発信していきたいと考えている。行政・県民・企業、観光客と一緒に、沖縄のなかで循環する社会を、沖縄県として発信できると良いと思っている。(久鍋委員)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的にトップランナーになってほしいという思いがある。脱プラスチックのライフスタイルの先進地になると県自ら宣言し、それを「我慢のライフスタイル」ではなくて、自然と共生する素敵なライフスタイルとして定着していくように、民間のアイデアや取り組みを応援していきながら実現できると良いと思う。応援の仕組みとしては、アイデアコンペや、手を挙げたところを「脱プラスチックゾーン」としてアピールするなどのやり方があると思う。県民の方々もわくわくしながら、新しい社会を切り開いていく、その主体なのだと思える取り組みを進めていけたらと思う。(村上委員)
7	<ul style="list-style-type: none"> ・いかにムーブメントにしていくか、かつ発信力を持って、当然県内の方もそうだが、外部の方にもプレーヤーになっていただくか、うまいキャッチフレーズなども含めて今後考えていく必要があるのかなと思う。皆様にはいろいろ先進事例を含めて気に留めておいていただくとありがたい。(浅利委員長)

3. Zoomのチャット及び会議後のメールによる委員の意見

No.	質問・意見等	回答
1	<ul style="list-style-type: none"> 発生抑制に向けた企業の先進的な取り組みによるブランディングは重要だと思う。行政だから出来ること、社会の制度・仕組みづくり（規制や支援制度）を行政機関は進めていただければと思う。（原田委員） 	<p>（対応方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> 下記の視点を提言に記載することを検討する 先進的取り組みによるブランディング 行政による社会の制度や仕組みづくり
2	<ul style="list-style-type: none"> アンケート案は非常に設問が多いので、郵送法とは別に質問を絞った簡易なアンケートを、県の公式LINE等があるなら活用し複数回行うとよいと思う。（原田委員） 	<p>（対応方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡易アンケートの実施について検討する
3	<ul style="list-style-type: none"> 県民へのアンケート調査設問（案）について、下記について検討していただきたい。 <u>問6の選択肢2と3の間に追加</u> <ul style="list-style-type: none"> プラスチックは企業が製品化し、また買い物をすると必ずついてくるので、企業の取組みが重要である <u>問8に選択肢を追加</u> 紙や自然素材（麦やさとうきびなど）、生分解性プラスチック <u>問12に選択肢を追加</u> マイボトルやマイカップの使用を推奨し、使い捨てのプラカップの使用を削減する （村上委員） 	<p>（対応方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見に沿って設問を修正する
4	<ul style="list-style-type: none"> 漁業系のごみ 漁網、発泡スチロールについての議論について、沖縄の状況を教えてほしい。 生産・流通の現場での、消費者の方々との対話の可能性について教えてほしい。（清野委員） 	<p>（対応方針）</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業系のごみについて情報収集する 生産・流通の現場での消費者との対話の可能性についてヒアリングを行う